

城北巡検

木村 千賀子

7月7日、栗原先生ご指導の巡検日。天候はさっぱりしないが、王子駅集合で1日巡検が始まる。以前の1日巡検で船橋をやはり栗原先生にご指導いただいていたので、覚悟はできていたが…しかしそれにしてもすばらしい健脚である。見学する場所も数多く、内容豊富な1日巡検となる。

王子権現神社を皮切りに、正受院では近藤重蔵の甲冑の石像を見、貿易会社跡にできた国立醸造試験所へ、そして一等地に残る緑である飛鳥山と公園を歩き、渋沢栄一資料館に。明治の一級建築がそのまま残り、ため息がでる豪華なつくりと手の行き届いた庭園に目がひきつけられた。案内の方の手厚い歓迎に閉口するというハプニングもおきた。

王子、赤羽は陸軍関係の工場が置かれている台地である。戦後、軍事工場は住宅地へと変化していくのだが、残った工場もある。王子製紙は、もともと地券の紙の印刷からはじまった工場が残ったものである。戦前は化学工業中心だったが、軍事工場へと変わったことから様々な工業へと変わった。荒川の水を利用して、製薬工場、鉄鋼関係、色素工場、乳製品と本当に幅広い。また、住宅地として団地がつくられ、公団を中心に著しい数となっている。住宅と工場の連立するこの地区は一種独特な雰囲気をかもしだして、大崎方

面の工場地域とは人が生活しているという点でまったく様相を異にしている。

最後に訪問したのが、この地区の工場の一つであるキリンビール工場である。昭和32年キリンビール第5工場として誕生し、後楽園の6倍の面積に400名が働き、1日に100万本のビールを生産している。ほとんどの作業を機械が行い、人間は機械の監視のみである。工場内は無人の場所が多く、歩き回ってもたまたま人に会う程度である。オートメーションで小気味よくビールびんが流れ、次々に1本のビールができあがっていく。機械の素晴らしさと、人間性の全く無視された仕事を機械のように行う人間が印象強かった。このキリンビール工場も戦後誕生した一連の工場の一つであるが、工場水と交通の便のよさがこの地の利点だったようである。

キリンビール工場の見学を終えて解散となるが、私たちがぐったりしているのに対し、先生はまだまだ少しも疲れている様子でなく、自分の体のひ弱さをあらためて感じた。王子・赤羽地区の見学をかけ足で行ったわけだが、これを頭の中にもっとじっくり整理して焼きつけるにはまた少し時間が必要で、次回の巡検までにつける体力とともに課題として残った。

(7月7日 栗原教育指導)

館山巡検

松浦 紅子

大学生になって初めての試験を終えると息つく暇もなく、10月1・2日の館山巡検へと我々1年は向かった。巡検は初めての経験だったので、実際にはどのようなことを行うのか、私は期待と不安の入り混じった心境で参加した。けれども事前の説明会で浅海先生が「今回は歩く巡検になる」とおっしゃっていたので、歩くことに関しては覚悟ができていた。

ところが1日目は宿舎である館山野外教育施設に到着して昼食をとり始めた頃から雨が激しさを増し、とうとう野外観察は中止となってしまった。そこで海岸段丘の形成過程や房総半島の南端部の畑累層・白浜層・野島崎層についての講義を受けるに止まった。また、夜には和室に全員集合して先生と親睦を深めた。

2日目にはようやく天気が回復したので、当初